

「房総のむら」歩いて歴史を偲ぶ

「房総のむら」を以前に訪ねたことがあるメンバーは車で行くのが当たり前と考えていたが、今回は脳活の旅であることから電車と脚を使った旅程を作成し、爽やかな晴天にめぐまれた9月9日に歩く旅を実行した。

メンバーは、京成成田駅から成田駅に移動し JR 成田線に乗り換えて下総松崎駅（しもうさまんざきえき）で下車して約 2.8Km 先にある「房総のむら」を目指し、歩いて出発した。

田舎風の小さな駅を出ると風景が一変して一人の人にも会うことなくガマの穂や彼岸花、そしてクズ

の花を見ながら坂田ヶ池総合公園に着いた。（写真1）池の畔にある梅の木の横には人柱伝説で知られる「片齒梅（かたはのうめ）」^(※1)という立札があった。

よく手入れされ公園にハイキングに来ている小学生の楽しく弾む声を聞きながら池の中程にある人道橋（浮き橋）を渡り、旧学習院初等科正堂へ向かった。



写真2 お化けキノコに見入る

キノコ（写真2）にも遭遇しながら広々とした緑の芝ジュータンの先にある旧学習院初等科正堂に到着した。

内部は長机と椅子が整然と並んでおり静寂と涼しさを感じながら休憩をとった。水分を補給し元気を取り戻したメンバーは、国の重要文化財となっている「旧御子神家住宅」や「旧平野家住宅」（県指定文化財）を見学した。

（写真3）内部は地面をたたき固めた土間と高床式部分に分かれている江戸



写真1 坂田ヶ池総合公園入口

途中、雑木林の遊歩道を歩いていると、木の枝のようなものが突然動き、メンバーが「キャー」と驚きの声を発すると同時にすばやく茂みの中に隠れてしまった。メンバーの一人が「あれは青大将だと思うよ」という一瞬ドキンとするハプニングを体験した。また、通常目にする事のないお化け



写真3 旧平野家（農家）住宅前

時代の中規模農家の生活様式などがよく再現されており、歴史を偲ぶに十分な雰囲気がかもしだされていた。

昼食はドラムの里にあるレストランで食べる予定であったが、あいにく予約客でいっぱいであったことからそこでの食事はやめ外のターンテーブルで持参したおにぎりや売店で購入した食材でゆっくりとった。なかでもメンバーが売店で購入し差し入れてくれたブドウ（巨砲）は甘く余韻の残るものであり、その味覚を十分に満喫した。（写真４）



写真４ 昼食を楽しむ

昼食後は「房総のむら」の出入り口となっている大木戸（65歳以上は入場料無料）から入り、人が乗れる籠が路上に置かれている「商家の町並み」^(※2)を散策した。（写真５）



写真５ 江戸時代の気分に

メンバーが最初に引き付けられたのが和菓子作りの体験ができる菓子の店「あまはや」であった。早速メンバー一人ひとりが最中にあんこ又はアイスクリームを包み込む体験をし、それを美味しく味わった。（写真６） また２階は

砂糖などの原料や素材及び加工工程などが展示されており、体験しながら学習できる小さな博物館であった。

町並みを一通り見学した後、房総の農家が再現されているエリアを散策した。途中のお祭り広場には、農村歌舞伎舞台があり、そこに置かれている和太鼓に向かってメンバーは両手に持ったバチで“ドンドン”とリズムカルな音を奏でて心地よい気分となった。



写真６ 手作り最中の味見

このエリアには、江戸時代の安房、下総、上総の名主クラスの農家が再現されていた。村境には村内の繁盛と外からの災いを防ぐ願いを込めた綱つりが架けられ七種類のもの^(※3)が垂れ下がっていた。また村内に入ると藁で作った蛇な

どを木に架け災いが家に入ってくるのを封じる辻ざりがあった。

また武者姿をしたほぼ実寸大の男女一対のかしま人形、これも五穀豊穡と悪行退散を願って村の神社に収められたとのことで、これらを作るのに村人が集まり絆をつなげたのだろうとの思いをめぐらすメンバーもいた。

農家の内部構造は、要の部分に大黒柱があり、土間には炊事をする「かまど」や「みずがめ」、そして農作業用の道具がいくつか置かれていて当時の生活様式を垣間見ることができた。（写真7）

安房の農家には機織り小屋があり機織り体験ができるとのことであつたが、当日は実施しておらずメンバーも興味ある体験を後日に先送りした。



写真7 土間から座敷を望む

「房総のむら」を数回車で訪れていたメンバーは、「こんなに見て歩いたのは初めて」と振り返り、脳活で実行している「脚で歩いて動く」との意識をもって散策すると、車で来た時よりも同じ場所でも見方に大きな差が生まれることを実感して、改めて足で歩く喜びを知ることができたとのことであつた。

歩いて歴史を偲んでみようとして計画した今回の旅、再現された房総地方の農家や商家の町並みの雰囲気に入り、興味を覚え、日常で味わえない体験をし、各自の歩数も1万5千歩を超え、メンバーの脳に元気を与えるものとなりました。

[参考情報]

(※1) 『坂田ヶ池に棲む雄の大蛇が毎年梅雨期になると土手を超して長沼の雌の大蛇に会いに行き、その度に池の堤がきれて村人たちが困っていると子供をおぶった女がやって来て人柱を立てるとよいという。村人達はその女と子供を一緒に生き埋めにしてしまった』（人柱伝説）

いつしか堤には子供がかじっていた梅が芽を出し実を結ぶようになったが実の片側が腐っていたという。また実は半分しかなくどの実もかじったような歯のあとがあつたことから「片齒梅」と呼ぶようになったとのこと。

(※2) 香取市（旧佐原市）などに残る古い町並みを参考にした、商家16棟と地藏堂・辻広場・稲荷境内・総屋で構成されている。

(※3) 種類のものとは、『サイコロ；たくさんある目で悪い者を怖がらせる、男のかしま人形；災いをとうせんぼする、エビ；災いを跳ね除ける、札；願い事を書く、タワシ；災いを洗い落とす、タコ；たくさんの足で怖がらせる、女のかしま人形；災いをとうせんぼする』である。

以上